

(介護予防) 認知症対応型共同生活介護事業所 サンケア春岡 運営規程

第一章 事業の目的及び運営方針

(事業の目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人 SUNCARE が設置経営する認知症対応型共同生活介護事業所サンケア春岡（以下「事業者」という。）が行う共同生活住居の入居者に対する認知症対応型共同生活介護及び介護予防認知症対応型共同生活介護（以下「指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護」という。）の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、共同生活住居の管理者や従業者が、要介護者及び要支援2の者（以下「要介護者等」という。）であって認知症の状態にあるもの（当該認知症に伴って著しい精神症状を呈する者及び当該認知症に伴って著しい行動異常がある者並びにその者の認知症の原因となる疾患が急性の状態にある者を除く。以下同じ。）に対し、適切なサービスを提供することを目的とする。

(運営の方針)

第2条 事業者は、家庭的な環境の下で入浴、排泄、食事等の介護、その他の日常生活上の世話、及び機能訓練を行うことにより、入居者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにする。

2 入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立った指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供に努める。

3 地域や家庭との結び付きを重視した運営を行い、さいたま市、居宅介護支援事業者、他の居宅サービス事業者、介護保険施設その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

4 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じるものとする。

5 事業所は、指定認知症対応型共同生活介護〔指定介護予防認知症対応型共同生活介護〕を提供するに当たっては、介護保険法第118条の2第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めるものとする。

(事業所の名称等)

第3条 共同生活住居の名称及び所在地は、次のとおりとする。

(1) 名 称 サンケア春岡

(2) 所在地 埼玉県さいたま市見沼区春岡3丁目36番7

第二章 従業者の職種、員数及び職務内容

(従業者の職種、員数及び職務内容)

第4条 共同生活住居の従業者の職種、員数及び職務の内容は次のとおりとする。

(1) 管理者 1人 (常勤兼務者)

専ら共同生活住居の職務に従事する常勤の者で共同生活住居の従業者の管理、業務実施状況の把握、その他の管理を一元的に行うとともに、従業者にこの規程を遵守させるための必要な指揮命令を行う。

(2) 計画作成担当者 2人 (管理者及び介護従事者等兼務、各ユニット1名)

入居者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、他の介護従業者と協議の上、援助の目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した認知症対応型共同生活介護及び介護予防認知症対応型共同生活介護計画 (以下「認知症対応型共同生活介護(介護予防)計画」という。)を作成する。

(3) 介護従業者 1ユニットあたり常勤換算にて5人以上

但し、24時間365日をおし常勤職員1名配置

管理者の指示を受け、入居者の日常生活状況等の把握に努め、認知症対応型共同生活介護(介護予防)計画に基づき必要な食事、入浴及び排泄等の援助及び金銭管理の指導、健康管理の助言等生活指導を行うとともに緊急時等の対応を行う。

(4) 看護従事者 1人 (非常勤)

入居者に対して日常的な健康管理を行うとともに、通常時及び特に入居者の状態悪化時における医療機関との連携及び調整を行う。

第三章 利用定員

(入居者の定員)

第5条 共同生活住居の入居者の定員は、次のとおりとする。

(1) 1階 (カモミール) ユニット 9名

(2) 2階 (サンフラワー) ユニット 9名 (計18名)

(定員の遵守)

第6条 災害その他のやむを得ない事情を除き、入居定員及び居室の定員を超えて入居させない。

第四章 指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護の内容及び利用料その他の費用の額

(内容及び手続きの説明及び同意)

第7条 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供に際し、入居申込者又はその家族に対し、運営規程の概要、介護従業者等の勤務体制、設備の概要、事故発生時の対応、苦情処理体制を記した文書を交付して説明を行い、提供開始についての同意を得る。

2 事業所で行う指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の内容は、次のとおりとする。

- (1) 入浴、排せつ、食事、着替え等の介助
- (2) 日常生活上の世話
- (3) 日常生活の中での機能訓練
- (4) 相談、援助

(入退居)

第8条 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護は、要介護者等であって認知症の状態にあるもののうち、少人数による共同生活を営むことに支障がないものに提供する。

2 入居申込者の入居に際しては、主治の医師の診断書等により当該入居申込者が認知症の状態にある者であることを確認する。

3 居室が空いていない場合、入居の必要がない場合等、正当な理由なく指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供を拒否しない。

4 入居申込者が入院治療を必要とする等、自ら必要なサービスを提供することが困難であると認めた場合は、適切な他の指定認知症対応型共同生活介護及び指定介護予防認知症対応型共同生活介護事業者、介護保険施設、病院又は診療所を紹介する等の適切な措置を速やかに講じる。

5 入居申込者の入居に際しては、心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努める。また、入居申込者が家族による入居契約締結の代理や援助が必要であると認められながら、これが期待できない場合については、さいたま市とも連携し、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を可能な限り図る。

6 入居者の退居の際には、入居者及びその家族の希望を踏まえた上で、退居後の生活環境や介護の継続性に配慮し、退居に必要な援助を行う。

7 入居者の退居に際しては、入居者又はその家族に対し、適切な指導を行うとともに、居宅介護支援事業者等への情報の提供及び保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

(サービス提供の記録)

第9条 事業者は入居に際しては入居の年月日及び入居している共同生活住居の名称を、退去に際しては退去の年月日を、入居者の被保険者証に記載する。

2 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護を提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録する。

(受給資格等の確認)

- 第10条 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確かめる。
- 2 前項の被保険者証に、認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護を提供するように努める。

(要介護認定の申請に係る援助)

- 第11条 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の開始に際し、要介護又は要支援認定を受けていない入居申込者については、当該入居申込者の意向を踏まえて、速やかに申請が行われるよう必要な援助を行う。
- 2 要介護認定の更新の申請が遅くとも要介護認定の有効期間の満了日30日前には行われるよう必要な援助を行う。

(認知症対応型共同生活介護計画等の作成)

- 第12条 管理者は、計画作成担当者に認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画の作成に関する業務を担当させる。
- 2 認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画の作成に当たっては、通所介護の活用、地域における活動への参加の機会の提供等により、利用者の多様な活動を確保する。
- 3 計画作成担当者は、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、介護従業者と協議の上、援助の目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画を作成する。
- 4 計画作成担当者は、それぞれの利用者に応じた認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画を作成し、利用者又はその家族に対し、その内容等について説明し、利用者の同意を得るとともに、当該認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画を利用者に交付する。
- 5 計画作成担当者は、認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画の作成後においても、介護従業者と実施状況の把握を行い、必要に応じて認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画の変更を行う。

(指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の取扱方針)

- 第13条 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護は、入居者の認知症症状の進行を緩和し、安心して日常生活を送ることができるよう、入居者の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行う。
- 2 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護は、入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して行う。
- 3 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護は、認知症対応型共同生活介護（介護予防）計画に基づき、漫然かつ画一的なものとならないよう配慮して行う。
- 4 介護従業者は、指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供に当たっては、懇切丁寧を旨とし、入居者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理

解しやすいように説明を行う。

- 5 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供に当たっては、当該入居者又は他の入居者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他入居者の行動を制限する行為を行わない。

なお、緊急やむを得ず身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況及び理由を記録する。

- 6 前項の身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講ずるものとする。
 - (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護従事者その他の従業者に周知徹底を図る。
 - (2) 身体的拘束等の適正化のための指針を別に整備する。
 - (3) 介護従事者その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施する。
- 7 自らその提供する指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の質の評価を行うとともに、定期的に外部のものによる評価を受けて、常にその改善を図る。

（介護）

第14条 介護は、入居者の心身の状況に応じ、入居者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術をもって行う。

- 2 入居者に対して、入居者の負担により、当該共同生活住居における介護従業者以外の者による介護を受けさせない。
- 3 入居者の食事その他の家事等は、原則として入居者と介護従業者が共同で行う。

（社会生活上の便宜の提供等）

第15条 入居者の趣味又は嗜好に応じた活動の支援を行う。

- 2 入居者が日常生活を営む上で必要な行政機関に対する手続等について、入居者又はその家族が行うことが困難である場合は、入居者の同意を得て、代わって行う。
- 3 常に入居者の家族との連携を図るとともに入居者とその家族との交流等の機会を確保する。

（利用料等の受領）

第16条 法定代理受領サービスに該当する指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護を提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該（介護予防）認知症対応型共同生活介護に係る地域密着型介護サービス費用基準額から当該（介護予防）認知症対応型共同生活介護事業者に支払われる地域密着型介護サービス費の額を控除して得た額の支払いを受ける。

- 2 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護事業者は、法定代理受領サービスに該当しない指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護を提供した際にその利用者から支払を受ける利用者の額と、指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護に係る地域密着型介護サービス費用基準額との間に、不合理な差額が生じないようにする。
- 3 前2項の支払を受ける額のほか、次に掲げる費用の額の支払を受ける。

- (1) 食材料費 (1日あたり 1,480円)
- (2) 住居費 (1日あたり 2,000円)
- (3) 共益費 (水道光熱費等として、1日あたり 1,100円)
- (4) 前各号に掲げるもののほか、指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められるもの。

4 前項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用について説明を行い、同意を得る。

(保険給付の請求のための証明書の交付)

第17条 法定代理受領サービスに該当しない指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護に係る利用料の支払いを受けた場合はその提供したサービスの内容、費用の額その他必要事項を記載したサービス提供証明書を交付する。

第五章 入居に当たっての留意事項

(日課の励行)

第18条 入居者は、管理者や介護従業者などの指導による日課を励行し、共同生活住居内の秩序を保ち、相互の親睦に努める。

(外出及び外泊)

第19条 入居者が、外出及び外泊を希望する場合には、所定の手続きにより管理者に届け出る。

(衛生保持)

第20条 入居者は、共同生活住居の清潔、整頓、その他環境衛生の保持のために協力する。

(禁止行為)

第21条 入居者は、共同生活住居内で次の行為をしてはならない。

- (1) 宗教や信条の相違などで他人を攻撃し、又は自己の利益のために他人の自由を侵すこと。
- (2) けんか、口論、泥酔などで他の入居者等に迷惑を及ぼすこと。
- (3) 共同生活住居の秩序、風紀を乱し、安全衛生を害すること。
- (4) 指定した場所以外で火気を用いること。
- (5) 故意に共同生活住居若しくは物品に損害を与え、又はこれを持ち出すこと。

第六章 非常災害対策

(非常災害対策)

第22条 共同生活住居の非常災害対策については、消防計画及び風水害、地震等の災害に対処する計画に基づき行う。また、火気・消防等についての責任者を置き次のとおり万全を期す。

- (1) 火気・消防等についての責任者に管理者を充てる。
- (2) 自主検査は、火災・危険の排除を主眼とした簡易な検査を始業時、就業時に行う。
- (3) 非常災害用設備は、常に有効に保持するよう努めるとともに法令に定められた基準に適合するように努める。
- (4) 火災の発生、地震及びその他の災害が発生した場合は、被害を最小にとどめるため、自営消防隊の編成により、任務の遂行に当たる。又、地域住民及びボランティア組織等とも日常の連携を密にし、緊急時の応援、協力体制を確保する。
- (5) 火気・消防等についての責任者は、次のとおり従業者に対して防火教育及び消防訓練を実施する。
 - 一 年2回以上の防火教育及び消火、通報、避難のための基本訓練
 - 二 年2回以上の入居者を含めた総合訓練
 - 三 随時、非常災害用設備の使用方法の徹底
- (6) その他必要な災害防止対策についても必要に応じ対処する体制を採る。

第七章 その他運営に関する重要事項

(入居者に関するさいたま市への通知)

第23条 入居者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨をさいたま市に通知する。

- (1) 正当な理由なしに認知症対応型共同生活介護及び介護予防認知症対応型共同生活介護の利用に関する指示に従わないことにより、要介護又は要支援状態の程度を増進させたと認められるとき。
- (2) 偽りその他の不正の行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。

(勤務体制の確保)

第24条 入居者に対し、適切な指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護を提供することができるよう、従業者の勤務体制を定める。

- 2 前項の介護従業者の勤務体制を定めるに当たっては、利用者が安心して日常生活を送ることができるよう、継続性を重視したサービスの提供に配慮する。
- 3 従業者に対し、資質向上のために研修の機会を確保する。

(衛生管理)

第25条 入居者の使用する施設、食器その他設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずる。

2 感染症が発生し、又はまん延しないように次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

- (1) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）をおおむね6月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
- (2) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。
- (3) 事業所において、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施する。

(緊急時の対応)

第26条 現に指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護の提供を行っているときに入居者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主事の医師又はあらかじめ定めた協力医療機関への連絡を行う等の措置を講じる。

(協力医療機関等)

第27条 入居者の病状急変等のための協力医療機関は次のとおりとする。

- (1) 名称 医療法人社団ときわ 大宮在宅クリニック
 - (2) 所在地 さいたま市大宮区大門町3丁目64番プロスパー大宮ビル3階
- 2 入居者のための協力歯科医療機関は次のとおりとする。
- (1) 名称 医療法人瑛清会 もちつき歯科
 - (2) 所在地 さいたま市見沼区春岡2丁目39
- 3 入居者の休日夜間等における緊急時の対応施設は次のとおりとする。
- (1) 名称 社会福祉法人桐和会 特別養護老人ホーム タムスさくらの杜見沼
 - (2) 所在地 さいたま市見沼区東宮下883番地1

(掲示)

第28条 共同生活住居の見やすい場所に、運営規程の概要、介護従業者等の勤務体制、協力医療機関、協力歯科医療機関、利用料その他サービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示する。

(秘密保持等)

第29条 従事者は、正当な理由なく、その業務上知り得た入居者又はその家族の秘密を漏らさない。

- 2 共同生活住居の従事者であった者が、正当な理由なく、その業務上知り得た入居者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう必要な措置を講じる。
- 3 サービス担当者会議等において、入居者の個人情報を用いる場合は入居者の同意を、入居者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得る。

(広告)

第30条 虚偽又は誇大な広告をしない。

(居宅介護支援事業者に対する利益供与等の禁止)

第31条 居宅介護支援事業者又はその従業者に対し、要介護被保険者への本事業者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を供与しない。

2 居宅介護支援事業者又はその従業者から、本事業者からの退居者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を収受しない。

(苦情処理)

第32条 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護に関する入居者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために苦情を受け付けるための窓口を本事業者（サンケア春岡）1階事務室に設置する。

2 前条の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録する。

3 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護に関し、さいたま市が行う文書その他の物件の提出もしくは提示の求め又はさいたま市職員からの質問若しくは照会に応じ、入居者からの苦情に関してさいたま市が行う調査に協力するとともにさいたま市からの指導又は助言を受けた場合は指導又は助言に従って必要な改善を行う。

4 さいたま市からの求めがあった場合には前項の改善の内容を市町村に報告する。

5 指定（介護予防）認知症対応型共同生活介護に係る利用者からの苦情に関して国民健康保険団体連合会が行う調査に協力するとともに国民健康保険団体連合会から指導又は助言を受けた場合は指導又は助言に従って必要な改善を行う。

6 国民健康保険団体連合会からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を国民健康保険団体連合会に報告する。

(個人情報保護)

第33条 事業所は、利用者又は家族の個人情報について「個人情報の保護に関する法律」及び厚生労働省が策定した「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」を遵守し適切な取り扱いに努めるものとする。

2 事業者が得た利用者又は家族の個人情報については、事業者での介護サービスの提供以外の目的では原則的に利用しないものとし、外部への情報提供については利用者又は家族の同意を、あらかじめ書面により得るものとする。

(虐待防止に関する事項)

第34条 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとする。

(1) 虐待防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る

(2) 虐待防止のための指針の整備

(3) 虐待を防止するための定期的な研修の実施

(4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者の設置

(調査への協力等)

第35条 提供した指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護に関し利用者の心身の状況を踏まえ、妥当適切な指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護が行われているかどうかを確認するためにさいたま市が行う調査に協力するとともに、さいたま市から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行う。

(身体拘束)

第36条 事業所は、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為は行わない。やむを得ず身体拘束を行う場合には、その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録するものとする。

2 事業所は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じる。

一 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図るものとする。

二 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する。

三 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施する。

(地域との連携)

第37条 事業の運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等地域との交流を行う。

2 提供した指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護に係る利用者からの苦情に関して、さいたま市が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他のさいたま市が実施する事業に協力する。

3 指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護の提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、さいたま市又はさいたま市地域包括支援センターの職員、指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護について知見を有する者等により構成される協議会(以下「運営推進会議」という。)を設置し、概ね2月に1回以上、運営推進会議に対し活動状況を報告し、運営推進会議による評価を受けるとともに、運営推進会議から必要な要望、助言等を聴く機会を設ける。

4 前項の報告、評価、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表する。

(業務継続計画の策定等)

第38条 事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する指定認知症対応型共同生活介護〔指定介護予防認知症対応型共同生活介護〕の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画(以下「業務継続計画」という。)を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。

- 2 事業所は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施するものとする。
- 3 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

(事故発生時の対応)

- 第39条 指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護の提供により事故が発生した場合は、さいたま市、入居者の家族等に連絡を行うとともに必要な措置を講じる。
- 2 前項の事故の状況及び事故に対して採った処置を記録する。
 - 3 入居者に対する指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護の提供により賠償すべき事故が発生した場合は損害賠償を速やかに行う。

(認知症介護に係る基礎的な研修の受講に関して)

- 第40条 事業所は、全ての介護従業者(看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。)に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとする。また、従業者の資質向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとし、業務の執行体制についても検証、整備する。
- (1) 採用時研修 採用後3か月以内
 - (2) 継続研修 年1回
- 2 従業者は、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持する。
 - 3 事業所は、従業者であった者に、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持させるため、従業者でなくなった後においてもこれらの秘密を保持するべき旨を、従業者との雇用契約の内容とする。
 - 4 事業所は、適切な指定認知症対応型共同生活介護〔指定介護予防認知症対応型共同生活介護〕の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

(会計の区分)

- 第41条 共同生活住居ごとに経理を区分するとともに、その他の事業の会計と区分する。

(記録の整備)

- 第42条 事業者は、従事者、設備、備品及び会計に係る記録を整備する。
- 2 入居者に対する指定(介護予防)認知症対応型共同生活介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、その完結の日から5年間保存する。
 - (1) 認知症対応型共同生活介護(介護予防)計画
 - (2) 提供した具体的なサービス内容等の記録
 - (3) 身体拘束等の態様及び時間、その際の入居者の心身の状況並びに緊急やむを得

ない理由の記録

(4) 第23条に規定するさいたま市への通知に係る記録

(5) 入居者及びその家族からの苦情の内容等の記録

(6) 事故の状況及び事故に際して採った処置の記録

第43条 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は社会福祉法人 SUNCARE
が定めるものとする。

附 則 この規程は、令和3年4月1日から施行する。

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

この規定は、令和8年4月1日から施行する。